

雷別ドングリ 倶楽部開催

2月4日(水)、標茶町雷別地区
 国有林の森づくり活動(自然再生活
 動)を行うボランティア活動(自然再生
 ドングリ倶楽部)が、今年度最後と
 なる第5回目の活動を行いました。
 先週から降りはじめ、大雪で、釧
 路市孤立させられた低気圧の影響で、
 市内にも強風を伴う降雪があり、わ
 かに積もった雪は、踏み固められ氷
 塊に変化しています。病院、博物
 館、学校等の公共施設があり、バス
 路線もあることから、交通量が多く、
 路面の氷に磨きがかかり、つるつる
 路面が出現します。
 つるつるな箇所です。よく滑るつる
 滑る路面、坂道の多いこの界隈では、
 歩道に止まらないうかがかります。
 雪が降るたびに、毎回こうなるのか?
 になつており、大変足元の条件が悪い
 さんには、大変足元の条件が悪いな
 かで、今回の活動は屋外ではなく、根
 西今部の活動は屋外ではなく、根
 芽の観察会を実施しました。樹木の冬
 の条件が悪くなることを想定してい
 たため、屋内での活動を計画したも
 の。(見事的中)



第5回 雷別ドングリ倶楽部

屋内実施ということ、次のよう
 な活動でした。

「平成27年度の活動内容の打合せ」
 より良いボランティア活動ができ
 るように、今年度の実施結果を踏ま
 え、来年度の活動内容を検討しまし
 た。
 雷別での植林活動はもちろんです
 が、会員の皆さんは、植物・森林・
 自然情報等をたくさん持ち、釧路・
 樹・巨木や人工林の見学、キノコ
 観察会等の実施を希望する意見が
 出されました。

「野山での安全確保のための情報」

野外で活動する機会の多い、会員
 の皆さんの参考となるようにと企画
 したもので、テーマは次の3つ。

- ・データーに見る山岳遭難発生状況
- ・豪雪時の車の運転の留意点
- ・野山でのロープの結び方

長が登山等で培った技術と経験を交
 えての説明を行いました。
 また、標茶町と厚岸町で、ヒグマ
 による人身被害が発生した直後だっ
 たことから、熊除けスプレー等につ
 いての質問もあり、冬の熊対策につ
 いて、皆さん興味があるようでした。
 次回、新緑の雷別国有林での活
 動になります。

なお、「雷別ドングリ倶楽部」で
 は、自然再生をボランティアで行う
 会員を随時募集しています。
 釧路湿原自然再生のひと、雷別
 地区自然再生事業(森林再生)に、
 あなたも参加しませんか。
 参加にあたり、講習受講、経験・
 資格が必要。といった堅苦しい要件
 はありません。お気楽にどうぞ。
 ただし、活動にあたり傷害保険料
 として、ボランティア活動保険への
 加入料が必要となります。
 詳細は、当センターまで、お問い
 合わせ下さい。

旧日本陸軍は、隣接する大国との有事を想定。その際に、大陸での国境突破が重要と考えます。

密林地帯といつた天然の障害物があ
り、この人を寄せ付けないうる環境
境の場所、迅速な行動ができれば、
当時の戦闘教範である作戦要務令
(略して作要)の綱領第九(敵の意
表に出ずるは機を制し勝を得るの要
道なり・・・)となります。

そのため、各種の特殊車両が開発
されます。

また、作業第四部第二章「密林地帯に於ける行動」では、「密林地帯は大なる地域に亙り異齡の混合樹密生し、倒木多く、其の内部には小流、湿地、地障、断崖、急傾斜地、岩石地等の地障存在し、通路を開設するにあらざれば部隊の通過困難なるを通常とす」と通路開設の重要性が謳われています。

この密林地帯の通路開設を迅速に行うために、開発された特殊車両が、「伐開機」と「伐掃機」。

伐開機能のある車両といえば、「マッハGoGo」のマッハ号。「伐開機」も、マッハ号のようにハンドルのボタンを押せば、車体前面から丸鋸が出てきて、木を切り倒しながら走行できる車両なのか。

「伐開機」の作業は荒々しく、鋸や動力伐採機等は使わず、踏ん張りのきく重い装軌車両に突角をつけて

邁進し、その衝撃力で樹木を左右に押し倒すもの。突角は樹木の状態に
応じて角度および上下位置を油圧操
作で変更できたようです。

「伐掃機」は、「伐開機」が荒ご
なしをした後に追隨して、通路をか
たづけるための作業車で、車体前面
の左右両側にある起重機（クレーン）
とウィンチを用いて、抜根作業や倒
木の移動を行うもの。

また、発電機を備えており、電動
鎖鋸、電動丸鋸などを用いて、倒木
の切断や小樹木を根元から切りはら
いの通路を完成する。鋸類は鎖鋸²、
丸鋸⁶の同時使用が可能だった。（さ
すがに重量70キロの九二式動力伐採
機は使われていませんね。）

なお、「伐開機」と「伐掃機」は
試作時に、北海道留辺蘂町（現北見
市留辺蘂町）の天然林で基礎試験、
実用試験を実施しており、その結果
は良好で、密林地帯突破、通路開設
の目的を達成し得ることが認められ
ました。

その後、エンジンや車体部品を戦
車と共通化する等して完成。少数が
生産された「伐開機」と「伐掃機」
でしたが、向かった先は、大陸国境
の密林ではなく、「ニューギニア方面」
これは南方のジャングルを切り開い
て、飛行場を設営するためでしたが、
揚陸直後に爆撃を受け破壊されてし
まったそうです。

終戦となり、日本軍の戦車等は処
分されましたが、わずかに残った車
両は、武装を撤去し、排土板を取り
付ける等の改造を施し、ブルドーザ、



除雪車等して、建設機械が普及するまで、使用されていたことを考える。と、馬力と人力で作業を行っていた。当時の林業の現場。荒っぽい作業を行つた。伐開機はともかく、「伐掃機」は林業機械として活躍できたと思ひませんか？ 実際に帯広営林局管内では、陸軍の牽引車が使われていたようです。

みなさんの近くに、武骨なデザインの古い重機はありませんか。よく観察したら、車体前面に星章の痕跡があるかもしれませんよ。

* 3月16日(月)

釧路湿原自然再生協議会

＊管内の自然情報の収集や情報提供
を行つていきます。下記のとおり
を随時更新しておりますので是非
ご覧下さい。



〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11

【IP】 050-3160-5787 【TEL】 0154-44-0533 【FAX】 0154-41-7305

【E-mail】 h_kusiro_f@rinya.maff.go.jp

【URL】 http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html

当センターは、国有林をフィールドとして、北海道の多様な自然との共生に向けた自然再生活動に取組むNPO等の活動支援、森林環境教育等に携わる教育関係者の支援・技術指導等を行っています。